

保育参観 & 千葉県少年少女オーケストラ

りかのひとりごと

2026年10月



9月に、3学年とも保育参観がありました。特に年少さんの保育参観では、様々な園児の姿が見られます。「様々」というのは、いつもと異なる姿ということです。たとえそれが、望ましくない姿や行動だとしても、丸ごと笑顔で受け止めてあげてほしいと思います。それもかわいい子どもの姿だからです。

まだ言葉に出せない恥ずかしさや、いつもと違う雰囲気や多くの視線を感じ、どうしていいのかわからない戸惑いなどを、小さい身体で表しているのです。そんな時こそ、寄り添ってあげてくださいね。それが「大事に育てる」ということです。お利口な時に褒めることではありません。

保育参観で保護者の皆さんとお会い出来るのは、とても楽しく嬉しい一時です。だから、懇談会では、皆さんが最近、体験していないであろう遊び=子ども達としている、またはこれからしようと思っている遊びを、ついつい一緒にしたくなってしまうのです。

子どもの気持ちに戻って、リフレッシュしてほしいという気持ちもあります。個人的には、前に出て何かをやらされるのは、とても苦手なので、イヤに思われる方の気持ちは、すっごくよく分かります！でも、せっかくの少人数クラスですし、なるべく皆さんの笑顔や笑い声を聞きたいのです。

「ありがとう」の気持ちで金平糖さんを用意していますので、お許してください。

時間の関係で年少さんだけ、竹田和平さんの「徳」や「ありがとう」のご紹介のみになりました。



9月23日(水)は、千葉県少年少女オーケストラの特別演奏会があったので、音楽に造詣の深い大学の友人と、文化会館に行ってきました。昨年度もこの書面で紹介した通り、30年間音楽監督を務めた佐治薫子先生がお辞めになり、下野竜也氏が就任されました。その就任記念の特別演奏会でした。

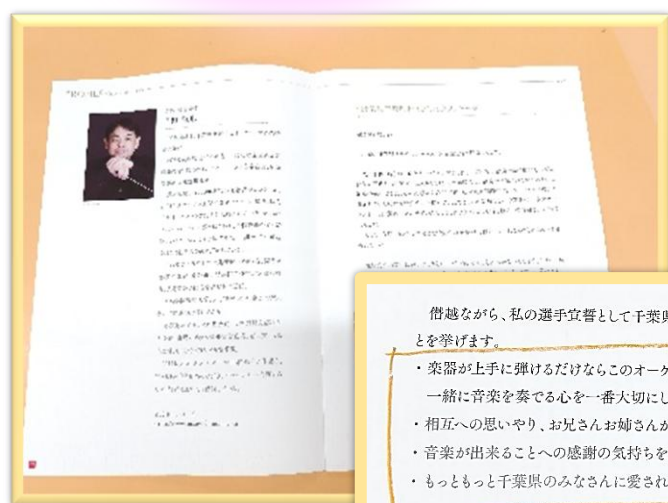
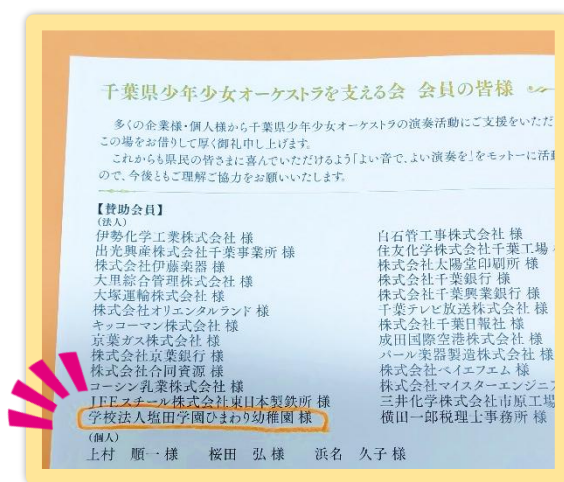
素晴らしい演奏が続き、ベートーヴェン「運命」がラストでした。友人が「第4楽章がとても良いんだけど、第3楽章のまま続くから合図をする」と言ってくれたので、曲の流れがよくわかりました。「演奏、よかったね」と軽いノリで横を向くと、彼女は深く感動し、泣いていました…。

そして下野先生のご挨拶がありました。数々の大舞台で指揮をされていらっしゃるのに、「子ども達の間がキラキラしているので、一番緊張した」なんてことをおっしゃっていました。でも、イヤミに聞こえません。人間性が言葉や音楽に表れています。徳のある方だと思いました。

アンコール曲は、佐治先生の退任の時にも演奏された、「主よ、人の望みの喜びよ」でした。佐治先生はバッハ先生と呼ばれていらっしゃいました。前任者への敬意、感謝が感じられ、素晴らしい演奏でした。当然、佐治先生はいらしているものと思っていたのですが、「私は辞めたのだから行きません」と新しい世界（書道）を楽しまれているらしいそうです。これもまた、素敵なお話でした。

佐治先生、お元気でいらしてください。

これからも、ひまわり幼稚園は応援していきます(*^_^*)



借越ながら、私の選手宣誓として千葉県少年少女オーケストラと取り組んでいきたいことを挙げます。

- ・楽器が上手に弾けるだけならこのオーケストラに在籍する意味はないと思います。一緒に音楽を奏でる心を一番大切にしていきます。
- ・相互への思いやり、お兄さんお姉さんが年下の団員を大切にする優しさを育みます。
- ・音楽が出来ることへの感謝の気持ちを忘れずに活動します。
- ・もっとも千葉県のみなさんに愛されるオーケストラを目指します。

どうぞ厳しくも温かく私たちを見守ってください。

